

社会科学習指導案

単元名「戦国の世から天下統一へ」

令和7年10月 第6学年 指導者 山崎 哉子

I 単元の構想

1 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説社会編 第6学年の内容「（2）歴史と人々の生活の（カ）キリスト教の伝来、織田信長・豊臣秀吉の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解すること、及びイの（ア）世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること」に当たる。

本単元では、児童が戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現することを通して、キリスト教の伝来、両武将の政策を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解するとともに、主体的に学習問題を追及・解決しようとする態度を養うことができると考える。

本教材では、戦国の世の政治の変化や人々の暮らしの変容を学ぶ。ここから、児童は権力の集中や戦の意味、時代の背景を捉えることで、歴史的な出来事の因果関係を捉え、多角的な見方を育むことができると考える。また、歴史上の人物の行動や意図を考察する活動を通して、社会的な見方・考え方の基礎を養える教材といえる。

2 研究との関わり

本研究は「自ら学び、深める社会科学習」を主題とし、単元内で自己選択学習を取り入れ、児童の自己調整力を育成することをねらいとしている。

児童の実態として、歴史の学習を楽しみにしている児童や、自分の考えをもとうとする児童が多く見られる。一方で、意見の交流は活発であるものの、そこから更に自分の考えを深めることに課題がみられる児童もいる。さらに、課題解決のために必要な資料の選択に難しさを感じている児童も少なくない。

こうした実態を踏まえ、本単元では、学習計画表や、まとめと振り返りを記入する「深まりシート」を用意し、児童が自身の学びを見通しながら、学びのペースや活用する資料、表現方法を自己決定する「自己選択学習」を取り入れる。また、追究する過程の最後に、それまでに習得した知識を活用し、社会的な見方・考え方を働かせて思考できる「小課題」を設定する。特に本単元では、織田信長・豊臣秀吉の天下統一に向けた政策について、「武士の立場」「庶民の立場」から評価することにより、多角的に社会的事象を捉える力が身に付くと考える。また、「小課題」を設定することは、児童が自己選択学習で学んだ知識を定着させることにも有効であろう。これらの手立てにより、主体的に自らの学びと向き合い、他者との交流を通して思考を深める児童を育成したい。

3 単元の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表、その他の資料で調べ、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにする。	・教科書中の重要語句についてまとめたり、与えられた資料から情報を得たりできる。
思考力、判断力、表現力等	・戦国の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目し、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一に向けた政策を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした両武将の役割を考え、適切に表現できるようにする。	・教科書や資料から、分かったことを、自分なりの表現方法でまとめることができる。 ・資料から分かった事実から、社会的事象について考えたことを表現することが苦手な児童がいる。
学びに向かう力、人間性等	・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一に果たした役割について、予	・社会科の学習に前向きな児童は全体の8割であり、多くの児童が特に歴史学習に興味をもっている。

	想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追及し、解決できるようにする。	・ほとんどの児童が、与えられた課題を遂行しようという意識をもっている一方で、個別の指示がないと学習活動が進まない児童が数名いる。
--	--	--

4 評価規準

知識・技能	・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表、その他の資料で調べ、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに戦国の世が統一されたことを理解している。
思考・判断・表現	・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下を統一した様子について調べそれを関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした織田信長・豊臣秀吉の役割を考え、適切に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追及し解決しようとしている。

5 指導及び評価の計画(全7時間:本時第6時)

過程	時間	□学習活動	知	思	態	◆評価項目<方法(観点)> ○指導に生かす評価、●評定に用いる評価
つかむ	1	<input type="checkbox"/> 長篠の戦いの様子に着目し、戦国の世の中から全国が統一されたことについて単元の課題をつくる。 <input type="checkbox"/> 単元の見通しをもち、学習計画を立てることができる。			○	◇絵図などから、戦国の世に興味関心をもち、単元の課題を解決するための学習計画を立てている。 <観察・ワークシート(態)>
		[単元の学習課題] 織田信長と豊臣秀吉は、どのようにして戦国の世を統一していったのだろうか。				
追究する	2	[第2時～第5時までのめあて] ① 戦国の世で、日本とヨーロッパにはどのような関わりがあったのか。 ② 織田信長は、天下統一をするために、どのようなことを行ったのか。 ③ 豊臣秀吉は、天下統一を進めるために、どのようなことを行ったのか。				
	3	※自己選択学習のため、児童自身の選択によって進度が異なる。 ・織田信長・豊臣秀吉の政策をまとめるときには、事実だけでなく「誰のために・何のために」という視点で考えを深める。	○	○		◇戦国の世で、日本とヨーロッパにはどのような関わりがあったのか理解し、記述している。 <ノート・ワークシート・学習支援ソフト(知・思)>
	4	・時間に余裕のある児童は当時の武士や庶民の衣食住について調べる。 ・チェックテストを作成し、児童自身のタイミングで知識の確認ができるようにする。				◇織田信長は、天下統一をするために、どのようなことを行ったのか理解し、記述している。 <ノート・ワークシート・学習支援ソフト(知・思)> ◇豊臣秀吉は、天下統一を進めるために、どのようなことを行ったのか理解し、記述している。 <ノート・ワークシート・学習支援ソフト(知・思)>

	5	□織田信長・豊臣秀吉の政策について整理する。		●	◇織田信長と豊臣秀吉の主な政策と影響について表に整理している。 <学習支援ソフト(思)>
	6 本時	[本時のめあて] 両武将は、天下統一に向けてどのようなことを考えて政策を行ったのだろう。			
		□武士と庶民の立場で織田信長と豊臣秀吉の政策について評価し、両武将が様々な立場の人を治めるために政策を行っていたことに気付く。		●	◆両武将が様々な立場の人を治めるために政策を考えていたことに気付き、記述している。 <学習支援ソフト(思)>
ま と め る	7	[本時のめあて] 織田信長と豊臣秀吉は、どのようにして戦国の世を治めていったのかまとめよう。			
		□単元の課題に対する答えをワークシートに記述する。	●	●	◆織田信長と豊臣秀吉が天下統一のために果たした役割を考え、記述している。 ◆学習問題に対する自分の考えを記述している。 <学習支援ソフト(知)(態)>

II 第6時の学習

- 1 **ねらい** 武士や庶民などそれぞれの立場で織田信長と豊臣秀吉の政策について評価し、その理由を友達と共有することを通して、両武将の政策を多角的な視点で捉え、天下統一に果たした役割を考えられるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
1 前時までに児童が作成した整理チャートを用いて学習を振り返る。(導入5分) S: 織田信長は楽市楽座によって、商業活動を活発化させたね。 S: 豊臣秀吉は刀狩によって、農民が反抗できない仕組みを作ったよね。	○二人の武将の政策の概要を理解できるように、前時までにまとめた表を提示する。 ○これまでの児童の「深まりシート」の記述から、両武将以外の視点で二人の政策について考えているコメントを取り上げる。 ○これまでは、それぞれの武将の視点で調べてきたが、実際にその支配下で生活をする武士・庶民の視点で両武将の政策について捉え直すことを伝える。
<めあて・課題等> 両武将は、天下統一に向けて、どのようなことを考えて政策を行ったのだろう。	
2 両武将の政策について、自分の立場(武士・庶民)から見てどんなメリット・デメリットがあるか考え、学習支援ソフトに記述する。(展開①15分) S: 信長が堺を支配したことで、高い武器を手に入れてくれたのは武士としてはありがたいと思うな。 S: 秀吉の検地は、自分の仕事に専念できるから庶民としてはありがたいかも。 S: 秀吉の刀狩は、庶民の反乱を抑えられるから	○武士や庶民の仕事や当時の年貢や税の取り立て状況を掲示しておき、両武将の政策が自分の生活とどのように関わるか考えるよう助言する。 ○考えをもてない児童には、まず、「自分にとってその政策はよいか悪いか」という簡単な選択から、なぜそう思うのか、理由を記述するよう助言する。

<p>武士としては安心できる取組だな。</p> <p>S：庶民の中にも「農民」「町人」がいるよね。町人だとしたら、信長の楽市楽座でたくさんお金を稼げるのはメリットだと思うな。</p>	<p>○庶民には「農民」と「町人」がいて、どちらの視点で考えるべきか疑問をもった児童がいたら、その気付きを称賛し、どちらかに視点を絞ってメリット・デメリットを考えてよいことを伝える。</p> <p>○自由に友達と意見交流をして、追加された考えは色を変えて学習支援ソフトに書きこむよう伝える。</p>
<p>3 全体で考えを共有し、立場や職業などによって、評価が変わることを理解する。 (展開②10分)</p> <p>S：庶民としては、刀狩をされるといざというときに身を守れなくなるし、楽市楽座でお金を稼げるから、秀吉より信長の基で生活がしたい。</p> <p>S：武士としては、刀狩をすることで、庶民の反乱が抑えられて、戦いが減りそうだね。</p> <p>S：武士と庶民で、よいと思う政策が変わるね。</p>	<p>◎一つの政策を違う立場から見ると、その評価が変わることが理解できるように、武士側・庶民側から意図的に指名をする。</p> <p>○武士・庶民双方の意見を色別に板書することによって、「どちらの政策も様々な立場の人から評価されていること」に注目させ、両武将が様々な人の生活を治めるために政策を考えていたことに気付かせる。</p>
<p>4 「深まりシート」にまとめを記入する。 (展開③10分)</p> <p>S：立場によっていろいろな評価があったね。</p> <p>S：自分だけじゃなくて、いろいろな人がよいと思える政策がないと天下統一はできないんだ。</p> <p>S：どちらの武将も、様々な立場の人のことを考えてバランスよくメリットがある政策を考えているね。</p>	<p>◎両武将が自分の力を高めるためだけでなく、様々な立場の民を従えるために政策を行っていたことに言及している児童のまとめを共有する。</p> <div data-bbox="853 987 1430 1160" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><まとめ></p> <p>両武将は、天下統一に向け、武士にも庶民にもバランスよくメリットがある政策を考え、行った。</p> </div>
<p>5 「深まりシート」に振り返りを記入する。 (終末5分)</p> <p>S：庶民の立場で、最初は秀吉の刀狩はいやだなと思っていたけど、友達の意見を聞いて、安全面で考えるとよい政策だなと思った。</p> <p>S：信長の政策も秀吉の政策も、自分の権力を高めるためだけでなく、様々な立場の人に影響を与えていたことに驚いた。</p>	<p>◆評価項目</p> <p>両武将が様々な立場の人を治めるために政策を考えていたことに気付き、記述している。 <学習支援ソフト(思)></p>

3 板書計画

単：織田信長と豊臣秀吉は、どのようにして戦国の世を治めていったのだろうか。

め：両武将は、天下統一に向けて、どのようなことを考え、政策を行ったのだろうか

政策名	織田信長の政策	豊臣秀吉の政策	徳川幕府の政策
高い	楽市楽座 自由にお金儲けが出来る 争いが減るから良い	刀狩 争いが減るから良い	刀狩 争いが減るから良い
やだ	刀狩 身を守れなくなるから悪い	刀狩 身を守れなくなるから悪い	刀狩 身を守れなくなるから悪い

武士の生活

食：庶民から取り立てた年貢
仕事
・戦(手柄を立てると出世)
・年貢や税の取り立て
・町の監視(警察)
その他
馬術・剣術・射撃・礼儀作法

庶民の生活

食：米・麦・雑穀・野菜が中心で贅沢な物はほとんど食べていなかった。
税：年貢(主に食べ物) お金
その他：農作物作り・商品作り(刀・酒・布など)
信長の時代は戦にかり出されることもあった

様々な立場の人の生活

↓

天下統一

ま：両武将は、天下統一に向け、武士にも庶民にもバランスよくメリットがある政策を考え、行った。